

北海道 原子力防災訓練

「厳冬期の「自然災害」と「原子力災害」の
複合災害発生時の孤立地域を想定」

2月13日、北海道の主権により厳冬の積丹半島で「自然災害」と「原子力災害」の複合災害が発生した想定で、避難所の開設・運営、住民の救出などが円滑に行われるよう、関係機関と連携した訓練を実施し、冬季災害の対応手順を確認しました。

◇訓練想定◇

美国小学校の放射線防護施設が破損した中、美国地区が雪崩によって陸路が寸断された状態で泊原子力発電所の事故により、全面緊急事態に発展したというものでした。

請の伝達訓練を行いました。

避難所運営訓練

町総合文化センター交流大ホールで、避難所内に放射線防護機能を有するエア TENT を設置するなどして、美国小学校の放射線防護施設の代替となる屋内退避施設の開設・運営の確認を行いました。

この訓練では、陸上自衛隊北部方面総監部第11旅団、第一管区海上保安本部、北後志消防組合、北海道警察の4つの機関が参加し、各機関が被災地の情報収集や連絡調整を担いました。

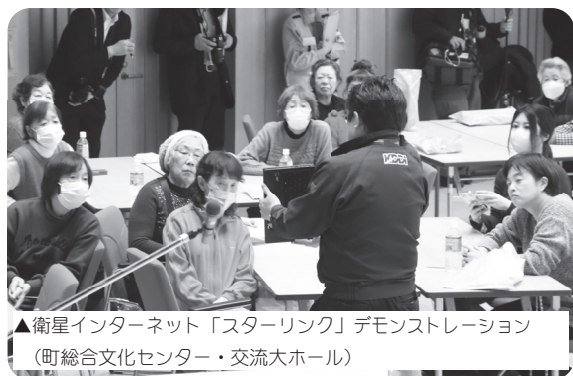
指揮所運営訓練

原子力災害合同対策協議会のテレビ会議による訓練も同日に行われ、町長から共和町のオフサイトセンターや内閣府へ町内の状況報告、支援要

の取扱会社の担当者や衛星インターネット「スターリンク」の運用担当者によるデモンストレーションのほか、道危機対策課職員から「一般防災」について、道原子力安全対策課職員からは、「原子力防災」に関する防災講話を受講しました。



▲町災害対策本部「指揮所運営訓練」(町総合文化センター・多目的室)



▲衛星インターネット「スターリンク」デモンストレーション
(町総合文化センター・交流大ホール)



▼「避難所運営訓練」(町総合文化センター・交流大ホール)

講話では、日頃の心構えや準備のほか、有事の際には「まず自分の命を最優先に守る。」そして、余力がある際に、周囲の人の手伝いや声かけに取り組むよう「自助」と「共助」の考え方について説明があり、参加者は、講話中に大きくうなずいたり、内容を書き留めたりしていました。



▲道危機対策課職員による「一般防災」講話（町総合文化センター・交流大ホール）



▼美国小学校グラウンドから町職員が待つ合流地点へ暖を取る資機材を軽雪上車輸送する第11旅団隊員

「物資緊急輸送訓練」

雪崩による陸路寸断を想定
美国地区二カ所で雪崩が発生。道路が寸断され、車両による物資の搬送が不可能となった孤立事態を想定し、美国小学校グラウンドで陸上自衛隊による雪上物資輸送訓練を実施しました。

同校グラウンドへ空輸された物資を第11旅団隊員が軽雪上車（スノーモービル）で町職員との合流地点まで輸送。合流地点で町職員は、運搬された物資を隊員から受け取



▲第11旅団隊員と町職員による物資載せ替え（美国小学校前）

悪天候により中止した訓練

計画では、美国漁港で第一管区海上保安本部の巡視艇を用いた避難所用物資の輸送（船舶）訓練を、美国漁港用地では、消防防災ヘリコプターでの美国地区から余市町へ要配慮者の救出訓練を予定

り、トラックに積み込んだ後、町総合文化センターに開設された避難所へ運搬しました。

していましたが、当日の悪天候により、実行困難と判断され、中止となりました。

町内へ向けた広報訓練

町民への広報訓練として、屋外拡声器とIP告知端末機による音声配信、携帯電話へエリアメールの配信を事象進展にあわせ2回、行いました。

IP告知端末機からの配信

訓練放送
泊発電所から放射性物質が放出されました。

1次移転の指示がありましたが、引き続き、屋内退避を継続してください。

訓練放送

泊発電所の事故が全面緊急事態となりました。
ただちに、自宅などに屋内退避してください

▲広報訓練・第1報

◀広報訓練・第2報

災害の備えは家庭から

自然災害や原子力災害などの非常事態は、いつ発生するか分かりません。災害が発生したとき、どこへ・どのように避難するのか、自分の命は自分で守る『自助』の確認を日頃から家庭でお願いします。

また、各家庭で非常食を備蓄し、賞味期限が切れる前に家庭で消費して入れ替える「ローリングストック」の取り組みをぜひお願いします。



▶担当者から非常食や防災資機材の説明を聞く参加者